

平成28年度第1回向日市総合教育会議会議録

日 時：平成28年5月31日（火）

午前10時00分から午前11時30分まで

場 所：向日市役所 大会議室

出席者：安田市長、永野教育長、前田教育長職務代理者、白幡教育委員、
松本教育委員、流石教育委員

事務局：今西市長公室長、酒井市民生活部長、植田健康福祉部長、小賀野教
育部長、渡辺教育部副部長 兼 文化財調査事務所長、玉城教育部副
部長 兼 文化資料館長、長谷川企画調整課長、浅田教育総務課長、
八木教育総務課担当課長、野田生涯学習課長、松下学校教育課長、
野田学校教育課担当課長、麻野教育総務課係長、阿部教育総務課主
査

傍聴者：1名

安田市長：

総合教育会議開会の前に、本日、傍聴を希望される方はおられますか。

八木教育総務課担当課長：

1名おられます。

安田市長：

傍聴を希望される方が1名おられるとのことでした。

この会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第1条の
4第6項及び「向日市総合教育会議運営要綱」第3条第1項の規定により、
原則公開となっておりますことから、本日の会議は公開するというこ
とでご承認いただきたいと思います。これについてご異議ございますで
しょうか。

出席者一同：

異議なし。

安田市長：

それでは、ご異議がないということで、会議は公開で進めることといた
します。傍聴希望者にお入りいただきください。

改めまして、皆様おはようございます。

ただいまから平成28年度第1回の向日市総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

教育委員の皆様におかれましては、本当にお忙しい中、本日の総合教育会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。常日頃からそれぞれのお立場で向日市政の推進、とりわけ教育行政の推進のために格別のご尽力を賜わっておりますことに改めてお礼を申し上げたいと思います。

この3月に本市の最上位計画でありますふるさと向日市創生計画を策定いたしました。これには教育分野も含まれており、このふるさと向日市創生計画と、前回の総合教育会議において、皆様からいただいたご意見を踏まえ、教育大綱（案）を作成いたしましたので、ご意見を賜わり、最終決定をしたいと思っております。

何度も申しておりますけれども、新しい教育委員会制度が始まりまして、教育委員会だけではなく、市長部局も含めて、向日市の教育について色々とお話をし、そして良い教育をつくっていききたいという思いでいますので、教育大綱の議題後に、教育委員の皆様から、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。どうかよろしくお願ひします。

それでは、議題に入らせていただきたいと思ひます。

議題（1）「向日市教育大綱（案）」について、事務局から説明をお願ひします。

小賀野教育部長：

それでは、向日市教育大綱（案）の概要について説明をさせていただきます。

教育大綱は、教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策の根本となる方針を定めるものでございます。向日市教育大綱（案）につきましても、前回までの総合教育会議におきまして議論をいただいております、それに基づき作成をしております。

まず、1ページに「教育大綱策定の意義及び趣旨」を記載しております。

内容についてであります。この大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、総合教育会議において、地方公共団体の長と教育委員会が協議、調整し、策定するものであること。

ふるさと向日市創生計画を踏まえ、定めるものでございますが、教育に係る施策分野につきましても、教育委員会においても議論を重ねていること。

市長部局も教育委員会とともに責任の一端を担うものであること。

教育大綱を踏まえ、市民の皆様が生涯にわたって、学習、文化、スポーツ活動を続けることができる総合的な環境の整備、充実に努めること。などでございます。

その他、教育大綱の期間、施策体系、記載内容についても前回までに議論をさせていただいております。順次、説明させていただきます。

まず、2ページの「教育大綱の期間」でございますが、ふるさと向日市創生計画との整合性を図るため、平成31年度までとしております。

次に、「教育大綱の施策体系」につきましては、2ページに記載しているとおりでございます。1 学校教育の充実、2 生涯学習の推進、3 生涯スポーツの振興、4 人権教育の推進、5 歴史あふれるまちづくりの推進の順で記載しております。

施策分野ごとの内容については、施策分野、施策、基本方向、施策が目指す姿を記載しております。

まず、3ページの施策分野1 学校教育の充実でございますが、そのうちの施策1 学力の向上と個性を伸ばす教育の推進では、小中学校の連携、ICTを活用した授業、一人一人を大切にした特別支援教育、グローバル化など社会の変化に対応した教育に取り組み、指導方法、体制を工夫、改善し、個性や能力を最大限に伸ばす教育を推進します。

施策2 豊かな人間性をはぐくむ心の教育の推進では、道徳教育や人権教育、芸術、伝統文化に触れる機会の充実に取り組み、さまざまな教育活動の充実に図るとともに、豊かな人間性、社会性の育成に努めます。

4ページの施策3 健やかな身体の育成と体力の向上では、運動能力の向上や食育の推進に取り組み、体育・スポーツに親しむ能力と体力の向上、健やかな身体の育成を図ります。

施策4 家庭・地域社会との連携による特色ある学校づくりでは、地域の人材の活用とふるさと学習に取り組み、家庭、地域社会と一体となった教育活動の充実に図り、特色ある学校づくりを推進します。

5ページの施策5 教職員の資質能力の向上では、多様な教職員研修に取り組み、教職員の資質能力の向上を通して、組織としての学校の教育力を高め、計画的、継続的な教育実践に取り組みます。

施策6 安心・安全な教育環境の充実に、いじめ、不登校の未然防止、安全教育の充実、中学校給食の実施、学校施設の長寿命化やトイレ改修に取り組み、児童生徒が楽しく過ごすことができる居場所づくり、安心安全な教育環境の充実に図ります。

6 ページの施策分野2 生涯学習の推進のうち、施策1 生涯学習環境の充実では、多様な学習機会の提供、社会教育施設の特徴を生かした学習機会の充実に取り組み、自主的、自発的な学習活動を推進するとともに、学習の成果を生かす場の充実に努めます。

施策2 家庭・地域社会の教育力の向上では、家庭教育に関する学習機会の提供や地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりに取り組み、学校・家庭・地域社会が連携して、さまざまな活動を通して地域の絆を強め、地域全体で子どもたちをはぐくむ環境づくりを推進します。

7 ページの施策3 市民文化の振興では、文化創造プランの見直しに取り組み、市民の自主的な芸術や文化活動に対する支援を行うとともに、優れた芸術文化に触れる機会の提供に努めます。

施策分野3 生涯スポーツの振興のうち、施策1 スポーツの振興では、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進に取り組み、市民が健康で心豊かに暮らせるようスポーツに親しめる環境の充実に努めます。

8 ページの施策分野4 人権教育の推進の施策1 多様性を認め合う社会の実現では、人権という普遍的文化が構築できるよう、人権教育、啓発に取り組んでまいります。

施策分野5 歴史あふれるまちづくりの推進の施策1 歴史・文化資源の整備と活用では、歴史文化拠点の整備と史跡長岡宮跡や古墳群の整備に取り組み、歴史・文化資源を生かしたまちづくりを推進し、未来に継承いたします。

以上、向日市教育大綱（案）について説明させていただきました。

安田市長：

ただいま事務局から向日市教育大綱（案）について説明がありました。ご意見等ございますでしょうか。

松本委員：

これまでの総合教育会議で、本市の最上位計画であるふるさと向日市創生計画の教育部分を抜粋して教育大綱を定めるということでしたが、施策分野1 学校教育の充実の施策が目指す姿の表現が児童生徒が育つまちという表現になっている。教育大綱としては、まちというかなり大きな目標よりも、もう少ししぼった教育部分の目標を出すほうが良いと思いますので、児童生徒の育成というような表現のほうが、学校教育の充実という目的が表せるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

施策分野2 生涯学習の推進以降については、市民全体が対象でもあるので、全体としてまちづくりにつながっていくということで、この表記でも良いと思います。

安田市長：

思いとしましては、学校教育によって、勉強の習慣・方法を学び、学習に対する取り組み方・方針につながる。それが、将来的に生涯学習の礎となって欲しいという意味です。最終的な目標ということで、学校教育を礎にどうしていくかという形で書かせていただいています。松本委員のご意見は、そのとおりですが、学校教育は元々やらなければいけないことであって、そこから一歩踏み込んでどう発展させていくかということです。

前田教育長職務代理者：

市長の言われたことは、私もよく分かります。

白幡委員：

児童生徒が育つまちよりも、児童生徒を育てるまち、もしくは児童生徒を育成するまちのほうが、教育に対して積極的に関与していることを文言化できると思います。

安田市長：

それもいいと思います。松本委員、白幡委員のご意見も、もちろんだと思います。表現をどうするかで、こういうまちにするために、こういう人を育てるというのも分かります。

永野教育長：

学校、地域、家庭という全体で子どもたちを育てていかないといけないという意味では、まちづくりだと思います。どこまで大きく捉えるのかだと思います。

流石委員：

これは大綱ということなので、市長が言われたように、どう捉えるかの問題だと思います。こういう子どもが育って、こういうまちになって欲しいというのであれば、それは目指す姿なので、まちづくりという表現も良いと思います。

安田市長：

大綱なので、そのあたりの捉え方をどう考えるかです。

永野教育長：

松本委員は、教育大綱の最初の学校教育分野で、いきなりまちという言葉が出てくることに対して疑問をもたれたわけですね。

松本委員：

ふるさと向日市創生計画は、まちづくりの計画ですので、教育でどの部分を重視するかを考えると、まちという表現は、余りにも大きいイメージを持ちました。

永野教育長：

大綱を向日市として、どう捉えるかというメッセージを発すれば分かっていただけだと思います。

安田市長：

大綱は大きな方針ですので、微細なところまで大綱に制御されるものではありません。市長公室長のご意見は。

今西市長公室長：

大綱という捉え方であれば、教育が最終的にはまちづくりにも発展していくと思いますので、まちという表現で良いと思います。

安田市長：

教育部長はどうですか。

小賀野教育部長：

この表現については、事務局でも悩んだところでした。実は育成という表現の案も出ていました。しかし、大綱ですので、今までの議論を踏まえ、目指す姿であれば、まちづくりであると事務局案として作成させていただきました。

安田市長：

大きく教育委員会制度が変わり、教育委員会は教育に特化することも大切ですが、まちの中の一つの教育分野として、他分野とどう連携し、整合性を図っていくかということも大切ではないでしょうか。教育もまちづくりも市民生活も全てが関係していますが、それぞれの立場から、教育を考え、教育からも他のいろんな分野を見ていこうということだと思っています。そういったことも含めて、教育大綱については、まちという表現で良いと思っております。

前田教育長職務代理者：

ふるさと向日市創生計画が行政のトッププランだとしたら、向日市教育大綱は教育行政のトッププランであって、そこにズレがないほうが良いと思います。文言にズレがあると、読む方の捉え方によって、考え方が変わってくるかもしれないので、まちのほうがズレがないと思います。教育の分野から考えると、育成のほうが合うとは思いますが、市長の考え方、捉え方を踏まえるとズレがないほうが良いと思います。

安田市長：

本市はまちの状況が非常に変わってきていますので、ふるさと向日市創生計画については、最上位計画ではありますが、毎年、実情に合った見直しをしていこうと思っています。従来の総合計画のように、状況が変わっても計画通りに進めるのではなく、年々変えていきたいと思っています。数値目標についても、ここまでならできるという目標ではなく、やらなければならない、やる必要がある目標として定めております。

ただ、教育大綱については、毎年変えるわけにもいきませんので、大まかな表現になると思います。

松本委員：

実際の具体的な施策ではなく、一番大きな目標を定めるという意味であれば、まちという表現も決して悪くないと思います。

永野教育長：

「教育大綱策定の意義及び趣旨」で「地域づくりを目指し」という文言が出てきますが、これは従来からの「向日市の教育」の文言です。ここで目指す姿の意味が含まれていることを明確にしています。

安田市長：

地域づくりとまちづくりの意味は同じです。まちづくりのほうが大きいイメージですが。

前田教育長職務代理者：

市長の教育に対する思いを考えると、ふるさと向日市創生計画と同じ表現で良いと思います。

安田市長：

学校教育、社会教育を含めて、教育の目指す姿を考えると非常に難しいです。学習能力を上げるだけでなく、社会に適応できる人間、自分のまちに愛着を持ちまちを盛り上げる人間、そういったことを全て含めて公教育が担っていかなければならないわけです。日々の仕事に追われて難しいですが、本来であれば、学校の先生にも教育のあり方、意義を分かりながら指導をしていただきたいと思います。

我々も、職員一人一人が将来のまち全体のことを考えていかないといけないと思います。だから、職員も自分のまちの状況、魅力、特徴をよく知って仕事をして欲しいです。だから、難しいかもしれませんが、私も職員や先生方と一体になって、このまちを教育分野だけでなく、大きな視野で見えていかないといけないと思っています。

このまちという表現には、そういった意味合いを十分に込めておりますし、松本委員、白幡委員のご意見の意味も含まれておりますので、教育大綱については、これで決定させていただいてよろしいでしょうか。

出席者一同：

異議なし。

安田市長：

それでは、向日市教育大綱については、これをもちまして決定とさせていただきます。

次に、議題（２）意見交換に入りたいと思います。

日々、思っていることをご発言いただけたらと思います。ここに福祉・市民生活・企画部門も出席していますので、認識を共有したいと思います。

前田教育長職務代理者：

向日市歴まちガイドブックをいただきまして、これを見て本市の方向性が見えてきたと思います。向日市はタケノコが有名ですが、実際に生えているタケノコを見たことがない子どもがたくさんいます。ふるさとの子どもを育てるのであれば、竹やぶは危険な面もありますが、タケノコに触れる機会があれば良いと思います。それにドングリが拾えたり、噴水で遊べる広場があって、子どもが集まれる環境が欲しいと思います。

安田市長：

確かに、各学校から竹やぶは行ったことがないですね。

前田教育長職務代理者：

タケノコには、成長のシンボリックなイメージがある。もっと、子どもたちが触れ合える場所が必要ではないでしょうか。

安田市長：

物集女青少年健全育成会議がタケノコ掘りを開催していますが、たくさんの方が来られてます。タケノコをどうやって掘るか、知らないと思うので良い体験だと思います。本来は土入れから見せたいですね。何か良い方法があったら良いですね。

前田教育長職務代理者：

人工的な場所でも、虫がいたり、いろんな年齢層の人と接する場所があったら良いですね。

安田市長：

タケノコについては、特産であることをもっと知ってもらったほうが良いですね。水遊び場や竹やぶについては、子どもたちは、危ないので行ってはだめばかりになってますが、安全に配慮すれば良いと思います。

向日市の歴史については、親よりも子どものほうがよく知っていますね。恥ずかしい話ですが、職員でも車塚古墳に入ったことのない人がいます。子どもたちに教える前に、職員が知るべきだと思います。まずは、職員がまちの歴史、状況、すばらしさを共有して、子どもたちやその親に知ってもらわないといけな。そのためにも、向日市検定をやろうと思っています。

流石委員：

向日市の魅力は、保健センターにファミリーサポートセンター等があり、子育て支援の連携が充実していることだと思います。今、虐待やひとり親家庭、不登校の問題が多いと聞いていますが、本当に困っている人に制度や施策を知ってもらうことが非常に難しいのではないかと思います。ホームページや広報を工夫して、制度や施策を知ってもらい、早期に対応することが問題解決につながると思います。

安田市長：

子育てコンシェルジュという制度を作り、母子健康手帳や妊婦健康診査の受診券を発行する際に必ず面談をし、継続的に状況をつかんでいます。妊娠された方に対して100%面談をしており、自信を持っています。ただ、足りない部分は、子育てコンシェルジュ等で早期把握したリスクの高い人に対する継続的な支援に係る情報がシームレスに学校に伝わっていないのではないかと思います。学校と保育所、幼稚園の三者が連携することによって、学校でも早くに対応ができると思います。この連携については、健康福祉部長はどう考えていますか。

植田健康福祉部長：

今年度の4月から、子育てコンシェルジュという制度を作りまして、妊娠から就学前に至るまでの切れ目ない支援に取り組んでいるところでございます。そこから学校にどうつなぐかという部分では、学校の校区ごとに学校の職員と保幼の職員との交流を行っているところです。ですが、校区ごとに行っているため、把握できない部分があり、一同に集まる機会等、関係者のネットワークづくりを検討しているところです。

安田市長：

本市の人口動態を見てみると、子育て世帯の流入はすごく多いですが、子育てが終わったら転出が増えているんです。子育てをフォローした後も住み続けてもらえるようにする必要があります。子育てするなら向日市、住み続けるなら向日市という施策を頑張っています。私にとっては、一生、住み続けるのにふさわしいまちだと思いますが、子育てのときは向日市にお世話になりましたという人がたくさんおられます。それは、少し違うと思っていますので、子育てが終わっても魅力あるまちにしていけないといけないと思っています。私は、それを通り過ぎるまちからの脱却と言

っています。通り過ぎるには二つの意味があり、観光でも京都に近いのに向日市の駅を通り過ぎるのが一つ。人生でも子育て時期だけで通り過ぎるのが一つ。この二つの意味で、通り過ぎるまちからの脱却を言っています。

松本委員：

北部の人口増の理由としては、向日市のことを全然知らないが、ただ便利だからという理由が非常に大きいのではないのでしょうか。通勤にも便利で、ショッピングセンターもあるという理由だけで転入してきた人に、向日市はこんないいまちなんだということに気付いてもらって、目を向けてもらうことが必要ではないのでしょうか。市長がおっしゃったように、向日市で育った子どもが、また向日市内でどこか家を探すような循環にするためには、向日市の学校もこの学校に通わせて良かったと思えるような学校にしていくことが必要だと思います。

安田市長：

北部開発でせつかく向日市に住まれた方に、将来的にも住んでいただけるような魅力あるまちにしていかなければならないと思っています。

それと、今後の課題ですが、第4向陽小学校の児童がこれからも大幅に増える可能性がありますので、教室確保の対応をお願いします。

永野教育長：

今、今後の児童数を推計している最中です。会議室等を転用すれば一定教室を確保することはできますが。

安田市長：

本校舎を建ててしまうと無駄になる可能性もあるので、プレハブを一時期活用するなどの方法も考えていただきたいと思います。

松本委員：

第4向陽小学校の保護者からも、不安の声をよく聞きますので、できるだけ早期に不安を解消してさしあげられるよう情報を発信することも必要ではないでしょうか。

安田市長：

昔に比べて、特別教室や少人数教室等があり、教室の使い方が変わっ

ていますし、人口動態を見据えての教室確保は難しいですね。

前田委員：

学校も含めて、魅力あるまちづくりが定住を促進する一番の方法ですね。子育て中も、その後も住むんだったら向日市という、魅力あるまちにしていけないといけないと思います。

安田市長：

ただ、最大の魅力は交通至便ですので、これをきちんと利用しないとイケません。それと、この向日市に住んでいる人に、このまちの魅力を分かってもらわないといけない。これが定住につながると思います。縄文、弥生時代から歴史があり、国指定の古墳群もあって、向日神社、長岡宮跡、戦国時代の物集女城もある。これだけすばらしい歴史深いまちに住んでいるのに、出て行かれるということは、市の努力が不足しているのではないのでしょうか。それに現実的な話では、働く場であるとか、買い物する場であるとか、遊ぶ場であるとか、そういった場も創造していかないと全体の魅力が保てないと思います。ふるさと向日市が一番だと思っていただけるよう、教育もその他の施策も含めて一生懸命やっていかなければならないと思っています。

白幡委員：

グローバル化という時代の中で、英会話教育というかけ声がかけてやすくなっています。数年前に向日市の歴史を英語で解説できるように、という話があったのですが、私は非常に疑問に感じました。京都で、英語でバスの案内をしている若者と年配の方を見かけたのですが、205番のバスの案内を「ツー、ゼロ、ゴ」と言ってるんです。それを何度も繰り返していたのですが、おそらく相手は理解できていないと思います。つまり、私が言いたいのは、学校の授業だけで英会話を習得することは不可能であるということです。日本語でも赤ん坊の頃から十数年かけて習得するわけですので、学校の授業だけでそんな時間はありません。中学校の英語教員で英検準1級を取得している割合が半分もない中で、英会話を教えることのできる先生は非常に少ないと思います。英検準1級ぐらいを取得していないと、英語で授業はできないと思います。だから、語学教育のあり方の議論以前に、現実的に英語教育は本当に地道なことをやらなければいけないので、基本的な能力をしっかりと持った先

生を配置していただきたいと思います。

安田市長：

英語教育は、興味と必要性ですね。

白幡委員：

そのとおりです。小中学生に英語の必要性はないので、興味を失わせないように、おもしろいと思わせることが必要です。ただ、基本的にどんどん新しいことを覚えなさいといけなないので、たくさん子どもが嫌になってしまうんです。そこに好奇心を持たせる努力が非常に難しいと思います。

安田市長：

自分が外国に行って、話せなくて困るというような必要性がないと学ぼうとしませんね。その必要性を感じることは、すぐには難しいので、興味を持ってもらうことが重要ですね。

前田教育長職務代理者：

学校での教育だけでなく、外国人の方と接する機会が多くなってきているので、子どもたちの語学力が伸びる機会も増えているように思います。

白幡委員：

英検準2級を受験した中学生のうち、リスニングでたくさん不合格になります。それは、普段から英語を聞いていないから合格できないんです。だから、外国人の方と話す必要性が多い場合は合格率が上がるんです。

前田教育長職務代理者：

タクシー会社でも、外国人の講師を雇って研修をしている。必要性があるから、英語を話せるようになるので、すごいと思いますね。

安田市長：

本当に英語をこれだけ勉強しても話すことは難しいですね。ただ、外国人の方と接する機会は増えていますので、語学だけでなく、習慣等も

知ることができて良いことだと思います。これからもグローバル化が進みますので、英語の必要性は変わってくると思います。その前に、日本語がしっかりと話せるようにすることも大事ですね。

前田教育長職務代理者：

正しい日本語も大事ですね。

安田市長：

色々のご意見いただきまして、ありがとうございました。日頃、教育委員の皆様の話聞く機会が少ないので、今後におきましても、このような形で議論をさせていただき、共通認識を持つことで向日市の教育が一層良くなると思います。今後ともよろしくお願いします。

以上で、総合教育会議を終わらせていただきます。

閉会